

AIDS UPDATE

No.27 2001.8.31

広島大学医学部附属病院

エイズ医療対策室

内線2941 (輸血部長室)

Internet: www.aids-chushi.or.jp

HIV感染症治療研究会 抗HIV薬治療のてびき 第5版

日本のHIV感染症の専門医たちが主に欧米の治療成績を参考にしながら、日本の治療で便利なようにまとめたものです。このパンフレットを理解しても、すぐに誰でも治療を開始できるようになるわけではありません。専門医たちが、何を目安にしながら、何を心配しながら治療にあたるのかご理解頂けると幸いです。

第4版と比べて、薬が増えました。治療全般の戦略が変わりました。併発する肝炎に対する配慮が増えました。妊産婦、母子感染治療の考え方はより積極的になりました。

臨床血液 高田 昇「HIV感染症治療の光と陰」

論文の別冊で、正直言って手前みそです。HIV感染症の臨床は治療薬が増えたことなどにより、ここ数年で急速に変化しました。広島病院で最近診療したHIV感染症の経過や治療の現状について述べたものです。「エイズは死に至る病」から「HIV感染症は典型的な慢性疾患」にシフトしたことをご理解頂きたいと思います。これは「誰が診ても経過は変わらない」から「専門家が診ると大違い」に変わったことも事実です。

広島病院を受診した HIV感染者の死亡例

広島病院のHIV感染者数は累計74人です。HIV感染の状態から経過観察中にエイズを発病してしまった例は、1995年2月が最後です。本院での死亡、そして消息がわかっている転院先での死亡例は累計20人で、エイズによる死亡は18人です。このうち11人が院内で亡くなりました。転院先を含め11人に病理解剖を許可されました。このうち5人は医学生のカンファレンスで検討されました。エイズ発病でみつかった患者さんの中には、不幸な転帰をとる例があり、発病前に診断することが大切です。



<ご意見募集>

「AIDS UPDATE」は今後も不定期に発行します。ご意見やご希望がありましたら輸血部までお寄せ下さい。 [TAKATA, OE]
takata@aid-chushi.or.jp